

郷矢 明美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

中級後半から中上級の学習者を対象としている。授業は1週間に1コマ(90分)で、クラスの目標は、①適切な語彙、文法、表現を習得し、文章表現の基礎を固める、②あるテーマや内容について、適切な構成と文体を使って意見文を書く、の2つである。テキストは『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』を使った。

2. 授業内容

全14回で、前半はテキストを中心に1コマで1課進め、助詞の使い方、呼応、書き言葉、接続詞といった文章表現の基礎固めを行った。また、学習項目確認のため次の授業ではクイズを実施した。後半はテーマに沿った意見文作成を中心に、①文末表現の練習、②テーマ、内容、段落、構成を考える、③意見文の作成、④ピア・レスポンス、⑤意見文の修正、といった流れで「ペットのあり方」と各自の自由テーマで意見文を作成した。特に自由テーマで書いた意見文のピア・レスポンスでは、クラスの学生2人と日本人学生であるLA¹1人の3人でグループを組み、学生が書いた意見文について意見交換を行なったが、LAには敢えて意見文に対する反論もしてもらった。自分の意見に対する反論を受けることで、考察を深めてもらいたいという意図による。意見文の作成は宿題として課し、授業中は時間の許す限りでピア・レスポンスを行ない、さらに教師からのフィードバック（言語形式の間違いについては下線を引いたりヒントを加えたりして自己訂正させた）を併せて、再提出させた。

3. 成果と今後の課題

ピア・レスポンスにおけるLAからの反論や意見について、学生からは「異なる視点から見られた」「視野を広げるのに役立った」「作文の修正にとっても役に立った」「他の人の意見を聞くことで文章をもっといい方向に直すことができた」といったようなコメントがあり、特に内容面で有効性が見られた。一方言語形式の間違いについては自己訂正を基本としたが、共起語においては自己訂正ができにくい様子が見受けられた。中上級における語彙習得のためにも、今後共起語の指導について検討したい。

¹ Learning Assistant: 授業担当者の授業運営を補佐したり、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う関学の日本人学生。